

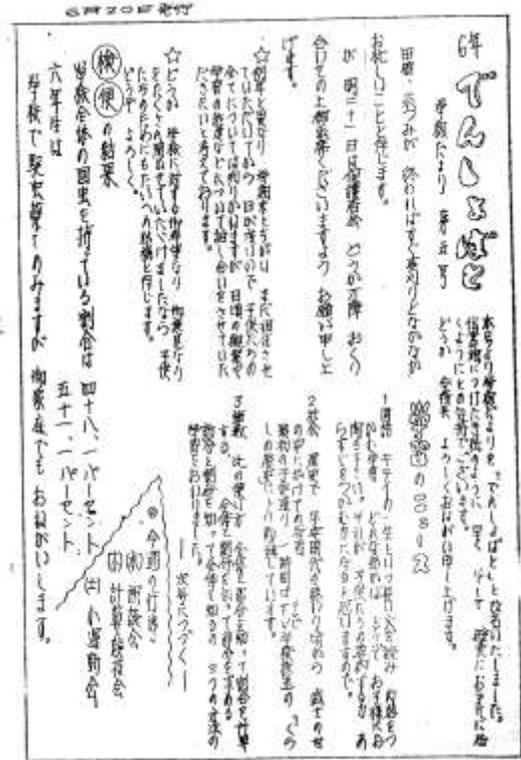
## ㊦ でんしょぼと

部屋が狭く、本箱が狭く、机が狭い（妻からは、「本箱も机も狭い  
のではなく広げっぱなしだからでしょう」と言われています）ので、  
文書や記録を次々に

捨ててきたのですが、  
「でんしょぼと」とい  
う表紙の綴りは今も  
残っています。これは、  
初めて勤務した神末  
小学校で発行してい  
た学級だよりの綴り  
です。ろう原紙に鉄筆  
でガリガリと書き付  
け、ザラ半紙に青いイ  
ンクで印刷した昔の  
印刷物は茶色く変色  
しています。

この「でんしょぼ  
と」を復活しようと考  
えたのは、昭和63年、  
生駒台小学校長を命じられたときでした。昔、私の思いを子どもたち  
に伝え、ご両親に聞いてもらって、ともに教育を進めたいと思っ  
て始めたことを、今度は、学校全体に広げ、更に地域にも広げてみたい  
と思ったのです。

そして、このミニコミ紙を通して、教育というものについての考え



方、生駒台小学校の教育方針や今やっている取り組み、子どもたちの生き生きした活動、学校のすばらしさなどを書きつらねていきたいと思いました。「問題は、ずっと続けられるかどうかだね」という何人かの先輩のご助言もあり、「やるぞ」と踏み切ったのは4月末のことでした。こんなことでスタートの遅れた学校だより「でんしょぼと」でしたが、昭和63年度の1学期には、次のような見出しと内容で13号まで発行しました。

第1号 笑顔がいっぱい、花いっぱい＝快晴、桜満開の入学式で1年生156人を迎えました。

第2号 風林火山「山もまた変化している」＝教育を進めるのに大切なことの1つに、変わってはならないものと変えていかななくてはならないことの見極めがあります。8年ぶりに生駒市に帰ってきた私を迎えてくれた生駒山を見つめて、そんなことを考えました。

第3号 でんしょぼと＝学校だよりの名前「でんしょぼと」はこうしてつけました、と名前の由来を説明しました。

第4号 さようなら、体育館＝児童数の増加で手狭になった体育館を改築していただきます。すばらしい体育館ができます。

第5号 運動会近づく＝工事の関係で運動会を6月5日に開催すること、いつもより早い運動会に子どもたちががんばっている様子をお伝えしました。

第6号 草の名前は？＝どの草にも名前があります。名もない草なんてありません。自然に親しみ、草花とも友達になりたいものです。

第7号 運動会終わる＝梅雨間近の運動会は雲ひとつない天気恵まれ、すばらしい会になりました。雨校長という名前はつきませんでした。

第8号 新しい体育館！＝新しい体育館は9月着工の予定、楽しみで

す。

第9号 アツ火事だ＝避難訓練を実施しました。お家でも「もしか」を想定して考えてみてはいかがですか。

第10号 奈良県小学校音楽発表会に出演＝「メヌエット」と「イエスタデイ」の2曲を演奏しました。185人の6年生は、みごとなハーモニーでたくさんの拍手をもらいました。

第11号 学習塾を考える＝これからの時代、何を身につけ、何を学ぶことが一番大切なことなのでしょうか。

第12号 デザートはサクランボ＝親子をつなぐものはいろいろです。子どもの楽しみであるお弁当を通じての心の触れ合い、ちょっとしたメモでの心の通い合いのすばらしさをお伝えしました。

第13号 夏休みです＝1学期、いろいろありました。楽しい学期でした。そんな思い出を書きました。

初めは家庭数分印刷していた「でんしよばと」



ですが、「せっかくの校長先生のお便りです。下の子にも残してあげたいと思います。ぜひ、みんなに配ってあげてください」というお手紙をいただき、教員と合わせて1100部を発行することになりました。また、生駒台小学校を陰から支えようとする目的でつくられた、育友会員のOB・OGの会である生駒台小学校育友会賛助会の皆さんから、「学校と私たちをつなぐものとしてぜひ…」との声があったり、校区内の自治会長さんにもお配りしたりで、さらに発行部数が増えました。

軌道に乗ったこの学校だよりは、しだいに発行のペースが上がり、生駒台小学校の4年間に第189号まで発行しました。生駒小学校で「すくすく」と名をかえて第200号まで発行したものについては、「せ：先生、『すくすく』はまだ？」に書いています。

平成2年の秋、県小学校長会研修部長のO先生から、「全国大会の『学校と家庭・地域との連携』分科会での提案を奈良県が担当することになったので、よろしく頼むよ」という電話がありました。先生は、「生駒台小学校は地域の人たちと共に作り上げられてきた学校であり、今も、地域を学習の場にし、地域の人たちを学校に呼び込み、共に子どもを育てようとしている取り組みがあるじゃないか。君の学校だよりもそうしたことを進める取り組みだろう」とおっしゃるのです。

そんなことがあって、平成3年10月、鳥取市で開かれた第43回全国連合小学校長会研究大会で発表することになりました。以下は、生駒台小学校の校歌の1節「歩いて行こう 自分から」を拝借した『歩いて行こう 自分から』の子どもを育てる」と題した発表のあらましです。

.....

生駒台小学校は、学制発布で開校した市内の学校の中に初めて誕生した昭和生まれの学校です。それだけに「新しい学校に理想を盛り込

もう」という地域の期待は極めて大きく、学校と家庭・地域とが力を合わせて取り組んできた歴史があります。今、学校を緑にしている多くの樹木も、家庭からの持ち寄り運動が展開された成果です。こんな地域の方々と作り上げてきたものとして、子どもたちの大好きな校歌を彫った校歌の石、ウサギやアヒルと遊べるなかよし動物園、茶釜で有名な生駒ならではの竹林園、カキやミカン、ブドウ、ナシなどが実る果樹園、今は力の森と呼ばれている創立当時にみんなで土を運び上げて作った前方後円墳、理科学習には砂場だけではなく土と遊ぶ場、石で遊べる場も必要ではないかと提案して、職員作業で作った土場と石場があります。(これらはスライドで見てもらいました)

こうした学校ですから、地域のスポーツや文化の拠点としての地位も占めていて、運動会1つにしても地域の祭典的な要素があり、体育の学習成果の発表だけでなく、学校と地域との交流、同じ地域に住む人たちどうしの交流の場となっています。また、全校音楽学習発表会は保護者だけでなく地域のお年寄りなどをお迎えして行う行事となっています。(この内容については、「そ：ソソソラソーではないよ」に書きました)

遊びの中で地域を学ぶ場として屋上に作った「地図の広場」は生駒台小名物としてテレビでも報道されましたし、社会科・理科や生活科では郷土を学ぶ取り組みが盛んです。2年生は働く人々の学習で、近くの農家を訪ねます。5年生社会の伝統産業の学習では、茶釜づくりに挑戦し、最後にはお茶会を楽しみました。茶釜は、今から500年ほど前(室町時代)に鷹山大膳介頼栄の次男宗砌が始めたと伝えられ、今は全国シェアの90%を占める生駒の大きな産業なのです。余談ですが、このクラスでは42人中23人がなんらかのけがをしたという報告がありました。でも、私も授業者も「けがが多いから止めにする」で

はなくて「けがをしない子どもを育てるための学習である」と考えています。

私の学校だより「でんしょぼと」は、こうした学校発のニュースを伝え、家庭や地域からの情報を呼び込むためのものになっています。これからも、こうした取り組みを一層深め、子育てを共に考え、家庭や地域の教育力を高めていきたいと思います。(ここでは、前述の「でんしょぼと」についてのお話を紹介し、最近号をいくつかまとめた冊子をお配りして、奈良県としての責任を果たしてきました。)

とにかく 3000 人もの先生たちの集まったこの大会では、全国各地から来られた校長先生の様々な取り組みをお聞きしたり、情報交換をしたりすることができて、参考になることがいっぱいでした。

生涯学習ということが強く叫ばれています。子どもたちに負けないように、先生たちも学ぶことが大切です。そのためには、私たち校長自身がしっかり勉強しなければと思いました。こんな体験が、県小学校長会が主催する研究大会や毎年取りまとめる研究論文集を一層充実したものにしていこうという気持ちにつながっていきました。